

第3回学校建設準備委員会 概要報告

新たな学校は「小中一貫教育校」として！

昨年12月12日、町民センター第2会議室において、「第3回真鶴町学校建設準備委員会」が開かれました。「あなたが今蒔く種は、やがてあなたの未来となって現れる。」という、夏目漱石の言葉をヒントに作られたくじ引きで座席が決められ、前回とは違った景色を眺めながらの話し合いになりました。保護者アンケートの結果報告を含め、各協議事項について、今回も熱い議論が繰り広げられました。

一貫教育校には幼稚園・保育所を含めないことに

建設を予定している一貫教育校(施設一体型校舎)は、小学校(まなづる小学校)と中学校(真鶴中学校)とで構成し、幼稚園(ひなづる幼稚園)及び保育所(貴船愛児園、石田保育園)は含めないことで決定しました。主な理由は次のとおりです。

- (1)5歳までの乳幼児期と児童・生徒期では、子どもの生活環境に大きな違いがあり、乳幼児と小中学生とが一緒に生活するための空間の確保は、敷地が限られている真鶴町では現実的に難しい。
- (2)保育所はすべて民営で、それぞれの方針のもと運営を行ってきており、教育を柱とする町立の施設に併設することは時期尚早である。
- (3)義務教育学校になった場合、教職員の組織自体が大きくなり、円滑な運営ができない可能性が高い。



委員の方からは「遊びが学びにつながっていくという人としての自然な育ちを大切にしたい」という貴重なご意見もいただきました。真鶴町の一貫教育とは、幼稚園教育と小中学校の教育を含めた考え方(12年間)であり、今後も幼(保)小中一貫教育をより一層充実させていくことに変更はありません。

また、幼稚園及び保育所の将来のあり方については、子どもの人口推移を見守りながら、早急に検討を始める必要があると考えています。

充実した協議内容、その一端を

今回も、委員の皆さんから素晴らしいご意見をたくさんいただきました。そのいくつかを紹介します。

- 基本構想に人権的な視点を取り入れて欲しい。
- 性同一性障害の子どもが使えるようなトイレも必要である。
- 小中一貫教育校と並行して、幼保の将来について検討を始めて欲しい。
- 幼保の段階から移り住んで欲しいことをアピールするべきだと思う。
- コミュニティ・スクールには地域課題を解決する役割も求められている。
- 集まってきた意見を専門的に咀嚼するフィルターが必要ではないか。
- 真鶴に移住してきたアーティスト系の方々に出席授業をして欲しい。
- 「半島まるごと学校」のようなキャッチコピーで半島の魅力を伝えたい。



建設場所については、引き続き検討することに

一貫教育校の建設候補地として、まなづる小学校の跡地か真鶴中学校の跡地に絞られ議論が進められています。委員の方からの積極的な資料提供もあり、比較する要素は多岐に渡ることが確認されました。歴史的な景観が残る小学校周辺と、町の新しい息吹が感じられる中学校周辺。次回の委員会では安全面や環境面、施設・設備面など様々な角度から議論を深めると同時に、まちづくりにもつながる、残された側の廃校利用についても意見交換を行うこととなります。

子どもたちにも語っていただきました

新しい学校をどんな学校にしたいのか、どんな設備があったら嬉しいのか、まなづる小学校と真鶴中学校の子どもたちに聞いてみました。自由奔放でありながらも、実に現実的でもある子どもたちの思い。大切にしていきたいと思います。

まなづる小学校6年生(昨年12月20日)

- ・生き物がいて自然がいっぱいある学校。
- ・給食にみんなで育てたものが出る。
- ・騒音が少なく、授業に集中しやすい環境。
- ・ベンチがあって公園みたいな感じに。
- ・ロッカーをもっと大きくして欲しい。

真鶴中学校生徒会役員(昨年12月18日)

- ・グラウンドを広くして。サッカーで公式試合ができない。
- ・トイレの洋式を増やして欲しい。便座も暖かいと良い。
- ・共同で使える畑を使って、小中一緒に農作業をしたい。
- ・屋上でゆったりできるスペースが欲しい。
- ・テスト中は静かに。

委員会の議事録と資料(一部)は
こちらから



次回のお知らせ

*傍聴もできますので、ぜひお越しください。
日時：令和6年3月22日(金) 13:40～
会場：町民センター2階 第2会議室(予定)

テーマ：「一貫教育校の基本理念②」

「一貫教育校の建設場所」
「保護者アンケートの分析結果」
他に令和6年度の予定等